

介助犬頼もしい相棒

南国・十市小児童、働き学ぶ

体が不自由な人の日常生活を助ける介助犬について学ぶ教室が、南国市立十市小で開かれ、3年生54人が介助犬の働きを学んだ。

J A 共済連高知の普及啓発活動で8日にあり、岡山市中区的藤原智貴さん(46)とパートナーとなって4年目の「ダイキチ」(雄6歳)が同小を訪問。藤原さんの声かけで、床に落とした1円玉をダイキチが拾った。手元にはないスマートフォンを届けたりする仕事ぶりを披露した。

児童たちは、ダイキチと暮らしてからの変化などを



床に落ちた1円玉を拾う介助犬のダイキチ(南国市で)

尋ね、藤原さんは「できる

ことが増え、精神的な支えになった」と説明。「目を合わせると遊んでもらえる」と勘違いしてしまう。介助犬を見かけても、どうか心の中だけで応援してください」と語りかけた。

岡林暖久君(8)は「人の役に立つすごい犬がいることがわかった」と話していた。

日本介助犬協会(横浜市)によると、盲導犬は全国に909頭おり、介助犬は57頭(10月1日現在)。県内では1頭が活動している。